

都市システム工学科 JABEE 説明会[資料]

Part1:JABEE に関する説明資料

Part2: 都市システム工学科が目指す人材像と教育目標

Part3:JABEE ってなんだか、わかりましたか?

2005. 4. 12 13:00～

水戸:26 番教室(新入生向け)

Part1: JABEE に関する説明資料

1. はじめに

皆さんが所属し、勉学に励み学問に臨んでいる茨城大学工学部都市システム工学科では、平成 18 年度に、日本技術者教育認定機構(JABEE : Japan Accreditation Board for Engineering Education / 設立 1999 年 11 月 19 日)に対し、本学の技術者教育プログラムの審査・認定をしていただくことにいたしました。つきましては、本資料により、上記機構の説明と審査・認定を受ける意義について説明させていただきます。

2. JABEE とは？

日本技術者教育認定機構(JABEE : Japan Accreditation Board for Engineering Education)は、技術系学協会と密接に連携しながら技術者教育プログラムの審査・認定を行う非政府団体です。この技術系学協会の一つに、本学科との関係が強い社団法人土木学会が加盟しており、また、日本の主要な学会はほとんど加盟しています。

3. JABEE の活動とは？

JABEE の主要な活動は、高等教育機関(私たちの場合、茨城大学です)で行なわれている教育活動の品質が満足すべきレベルにあること、また、その教育成果が技術者として活動するために必要な最低限度の知識や能力(Minimum Requirement)の養成に成功していることを認定することにあります。

JABEE の活動は教育機関に一定のカリキュラムや達成度を押し付けたり、教育機関の教育レベルを調べて順位付けし公表したりするものではありません。むしろ、文部科学省の大学設置基準の大綱化に従い、各大学の個性を伸ばすこと(ここが大切です)を目的としています。各教育機関に独自の教育理念と教育目標の公開(Part 2, 茨城大学都市システム工学科の理念・目標を説明いたします)を要請し、新しい教育プログラムや教育手法の開発を促進し、日本や世界で必要とされる多様な能力を持つ技術者の育成を支援するものです。

4. JABEE の認定を取得するためには、

JABEE は先の大学の理念を実現するために、次のような活動を求めています。

- (1) 大学や教育プログラム(カリキュラムです)は、社会のニーズに一致する使命と目的を明示しなければなりません。
- (2) 教育プログラムは、使命と目的に沿う具体的な教育目標を定義し、教育活動の成果がこれらの教育目標と日本技術者教育認定制度が求める教育成果を如何に満たしているかを示さなければなりません。
- (3) 教育プログラムを継続的に改善する仕組みを持たなければなりません(これが重要です)。すなわち、

教育(講義)の計画(シラバス) 教育(講義)の実施 教育(講義)の点検
次年度以降の教育(講義)への反映

を行います。このような改善においては、下記の点を考慮いたします。

- a) 学生や就職先企業など顧客層のニーズを取り入れる方法
- b) 教育活動を観察して教育成果を測定し分析する方法 (Assessment)
- c) 教育プログラムが教育目標を達成しているか否かを判断する方法 (Evaluation)

d) 効果的な自己点検・教育改善システム（組織と活動）

(4) 入学学生の質，教員，設備，大学のサポート，財務などの諸問題を教育プログラムの目標と結びつけて十分検討してあることが求められます。

これらの項目は，教育機関が，整然とした教育目標と教育戦略を持ち，必要な水準の教育活動を維持し継続的に改善していくために，人的資源や設備が組織的にも財政的にも充分であることを要求しています。

5. 学生の皆さんにとっては・・・

要するに，「茨城大学工学部都市システム工学科の教育プログラムは，学士レベルに対応する技術者育成のための基礎教育を実施していること」を JABEE にて認定していただき，外部に示すことが重要です．本学科の教育プログラムが JABEE の認定を受けると，皆さんは卒業する時点で，JABEE に認定された教育プログラムを修得することになり，「技術者の卵」であることを，茨城大学工学部都市システム工学科が保証することができます。

では，「技術者の卵」と認められた皆さんは，どのように成長していくのでしょうか？

基礎高等教育を修了した技術者は，実務経験と継続専門教育（CPD）を通じて能力開発を続け，より“高度な技術者”へと成長していきます．“高度な技術者”の一例として，国が定める技術者資格 技術士 を取得して公認された技術者というものがあります。

日本の技術士制度は，外国の技術者資格制度と整合性があり，またその基準が世界標準に適合するものであるという主張を行っており，外国との調整を行っている最中です．そのような背景から，国際的に整合性のある新しい技術者資格制度が，技術士審議会で審議され、その答申に基づいた技術士法の改正案が 2000 年 4 月に国会で可決され公布されました。

その中で、文部科学大臣が指定する認定教育課程（＝JABEE 認定の技術者教育プログラム）の修了者は，技術者に必要な基礎教育を完了したものと見なされ，技術士第一次試験を免除されて直接「修習技術者」として実務修習に入ることができると規定されており（図 1 参照），この点が皆さんにとって，具体的に有益な点と言えます。

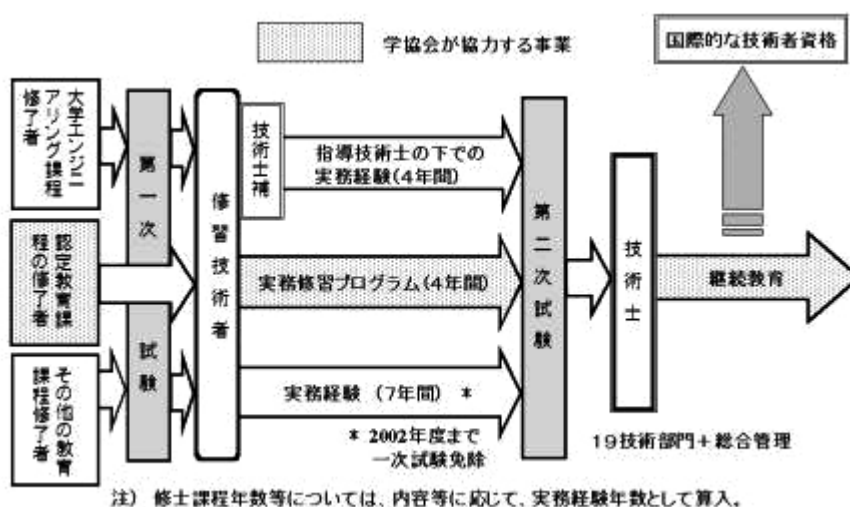


図 1 (<http://www.jabee.org/>より引用)

6. もっと詳しく知りたい人に．

次の HP 等をご参照ください：<http://www.jabee.org/>

Part 2: 都市システム工学科の教育プログラム

1. 学科が目指す人材像と教育目標

(1) 都市システム工学科の沿革と教育理念

茨城大学都市システム工学科の前身は、1981年（昭和55年）に設立された建設工学科である。建設工学科の実績を受け継いで、1990年（平成2年）には茨城大学工学部改組の一環として、都市システム工学科が設立された。都市システム工学科は、自然環境、人間社会、そして社会基盤施設を相互依存的なシステムとしてとらえ、社会基盤施設の建設・管理、環境管理、都市計画及び関連分野の幅広い教育を行うことを設立の理念としている。この理念は、個々の要素技術にとどまらず、都市・地域における安全・環境・生活質向上を総合的に達成しようという新しい土木工学を志向するものである。さらに最近では、新しい土木工学として、持続的発展可能な社会を支える学問分野である持続可能工学の形成へと発展している。

こうした理念に基づいて、本学科は、安全・快適・環境をキーワードとする幅広い学問領域に対して多面的な視点を持ち、21世紀に必要な「持続発展可能な社会」、「循環型環境・経済社会」の形成に貢献することのできる、新しい土木工学分野の工学者・技術者を養成することを目的とする。

都市システム工学科の教育理念

自然環境、人間社会、そして社会基盤施設を相互依存的なシステムとしてとらえ、安全・快適・環境をキーワードとする多面的な視点を持ち、「持続発展可能な社会」の形成に貢献することのできる、自律的で個性的な新しい土木工学分野の工学者・技術者を養成することを目的とする。

(2) 学科が目指す人材像と教育目標

最近の土木建設分野を取り巻く情勢を踏まえると、都市システム工学科が育成する人材は、今後、社会基盤施設の建設・維持管理、都市・地域管理を担う建設会社や自治体などに進出するとともに、環境コンサルタントやソフトウェアハウス、福祉・生活支援業務、国際機関などの新しい分野、さらに個人で行う仕事など、従来の土木分野の枠を越えたより幅の広い分野で専門家として活躍することを期待している。

このために、学科の目指す教育は以下のように特徴づけられる。

1) 時代の要請に応える技術者の育成

高度成長期のものづくり中心の工学では、成熟経済期、人口減少社会に代表されるこれからの時代に十分対応できず、生活者サイド、市民サイドに立って要素技術の統合をはかることが、新たな都市システム工学の使命である。さらに、誰もが経験したことのない時代を迎えるにあたり自立して新分野を開拓できる技術者を育成していかなければならない。

2) 新しい建設分野への対応

今後、従来型建設分野は国内市場が縮小する一方、安全・安心の保障のための防災システムの強化、地球環境に配慮した持続可能な循環型社会の構築、生活質の向上などが一層求められるため、構造物の維持管理、更新、リサイクル、環境、情報化、福祉への配慮、海外市場及び途上国支援などが相対的に重要になると予想される。

それに伴って、今後必要とされる建設分野の方向性としては、a) 要素技術を統合して構造物や地域全体の姿を描く技術(デザイン技術)や都市管理や環境管理技術、b) 環境・福祉などの分野の専門的技術、c) IT、GIS、RSなどの情報技術があげられる。

すなわち、都市システム工学科では、土木工学の基本を修めるとともに、以下のような個を尊重し自律的な人材の輩出を目指す。

- 1) 自分の指向を自覚し、自らの力で考えることのできる自立した人
- 2) 安全で、健全、豊かな社会の形成に尽くそうという意欲をもった人
- 3) 建設技術及び関連する情報技術の基礎を修得している人
- 4) 要素技術あるいは統合化技術(デザイン技術)を得意として身につけている人

これらの能力は土木工学以外の分野の職業人・社会人としても有効なものであり、本学科は卒業生が各自の志向と意欲に基づいて他の分野に進む場合にもこれを支援する。

2. 学科の学習・教育目標

上記の学科の理念・目的を実現させるために、学科における学習・教育目標を以下のように設定する。

I. 時代の要請に応える技術者としての素養および基礎技能の育成

- (i) 「広い視野と柔軟な思考」安全・環境・生活質向上をキーワードとする土木工学領域に対する広い視野と柔軟でバランスよいシステム思考を身に付ける。
- (ii) 「地域・文化・市民社会への素養」それぞれの地域における固有の文化、社会とその規律の歴史的発達、地域や人々の相互関係や相互依存に対して理解し、社会に奉仕しようとする意欲を持ち、社会人にふさわしい幅広い知識と教養を身に付ける。
- (iii) 「環境観」環境観を育み、持続可能な発展を支える工学技術に必要な知識と考え方を身につける
- (iv) 「デザイン能力、システムの計画・設計能力」都市・地域やインフラ施設の質を高めるために、要素を統合して構造物や地域全体の姿を描く技術（空間デザイン能力）、また都市管理や環境管理などシステムとして捉えるアプローチ技術を身に付ける。
- (v) 「課題探求能力」地域の社会自然条件の制約を踏まえ、工学基礎力と専門技術を統合化して問題の設定及び解決に当たる課題探求能力を身につける。
- (vi) 「自律的・継続的学習能力」時代の変化や社会の要請に応えるために、自律的かつ柔軟に対応できる能力と、生涯にわたって継続的に学習を続ける能力を身につける。

II. 新しい建設分野を担う土木技術者としての基幹技術力の育成

- (i) 「技術者としての基礎力」工学者・技術者としての基礎力、すなわち学科の専門科目の基礎としての数学や自然（物理、化学、生物）の基礎学力ならびにコンピュータ操作の基礎から GIS、RS などを含む情報処理技術、さらに基本的なプレゼンテーション、コミュニケーション能力までを修得する。
- (ii) 「専門基礎学力」都市基盤施設の計画、設計、施工、維持管理、補修補強、運用に関する技術を修得し、それを応用する能力を身に付ける。
- (iii) 「技術者倫理」専門的職業人の果たすべき役割・責任を良く理解する。
- (iv) 「実際問題への応用力」土木の実務と建設プロジェクトの推進に関する基本事項を理解し、自ら計画・遂行し、結果を分析・考察する能力を身に付ける。

Part3: JABEE ってなんだか、わかりましたか？

都市システム工学科は JABEE 受審に取り組んでいます

- ・ 授業の水準は基本的には変わりません -- 従来どおりの実務で必要な水準での教育を行います
- ・ 教職員の授業への取り組みが、変わります
- ・ 何を教えるのか、なぜ教えるのかを、明確にします

都市システム工学科の教育が、土木分野の教育プログラムとして十分な水準であることを、社会にアピールしていきます

- ・ 授業の項目や内容が社会の求める土木教育に適合するよう、常に改善をつづけていきます
- ・ 卒業生が土木の関連分野での技術士の資格を取れる技術者に育つための教育に力を入れます

都市システム工学科では、みなさんが卒業に向けて目指すべき目標を明確にしました

- ・ 土木系の技術者として必要なことは、社会の役に立つことです
- ・ 本学科の卒業生が社会で評価されている人間性を、教育でも重視します
- ・ 別紙「教育目標」を理解してください
- ・ みなさんが一生をかけて成長していく中で、在学中はここに目標を絞ってください

都市システム工学科は、みなさん自身が自分の成長を管理することを求めます

- ・ 在学中は常に、技術者としての自分自身の成長の度合いをチェックしてください
- ・ チェックする方法を指導します
- ・ 自分が今、何が欠けているのかの判断の上で、授業科目を選択してください

都市システム工学科は、みなさん自身の成長のために授業を行います

- ・ 授業科目ごとに、みなさんの何をどのように育成できるのかがわかるよう、シラバスの説明を一層、充実させます
- ・ 皆さん自身が、それぞれの科目を何のために受けるのかを明確に意識してください
- ・ 学期を通して、講義や課題が皆さんの成長の役に立っているか、常にチェックしてください
- ・ 試験は、みなさんの成長をチェックするためのもので、その結果で単位を出します

都市システム工学科の教育プログラムは、学生と教官と一緒に改善していきます

- ・ 大学での教育についての意見交換できる機会を、充実させます
- ・ 卒業してからも、大学での教育について意見交換できる機会を、設けます

都市システム工学科の JABEE に関する問い合わせ
もし、不明な点があったり、質問がありましたら、
メールで、jabee-core@civil.ibaraki.ac.jp まで連絡下さい。
学科HPでも、FAQを掲載する予定です。

都市システム工学科 JABEEWG
横山功一、山田稔、小峯秀雄、横木裕宗、桑原祐二、信岡尚道

学生自己評価票の使用について

[卒業まで保存]

薔市システム工学科(JABEEワーキング)

1. 学生自己評価票のねらい

すでにJABEE認証会で証明したように、薔市システム工学科では、皆さんが社会に出て役に立つような10種類の目標のすべてについてまんべんなく最低限必要な水準を達成してもらいたいと考えています。さらに、皆さんの個性に応じて、さまざまな分野や教育目標を選択して一貫の力をつけ発展していくことを望んでいます。

学生自己評価票は、前巻のねらいに沿って、まんべんなく力をつけて行っているかをチェックするためのデータとなります。これは皆さん自身が所有し、自分で学期ごとに内容を更新し、卒業までの間、必要に応じて省材料として自分の力を長期間、継続的に蓄積できるようにすることがねらいです。成績通知票と同様、一切他人に見せることのないものですが、担任が指導のため定期的に提言を求めます。また、思ったように単位が取れず教員に相談するような時に、極めて重要な働きをします。

学生の皆さんは、以上の主旨を理解して、下記の証明に従いこのシートを活用してください。

2. 学生自己評価票の記入方法と、提出時期

- 先に、前学期分について(4)の記入を行ってから、新学期分について(1)から順に進めます

(1) 学期の初めに、受講計画を立てる際

- 受講予定の科目のすべてについて必要事項を記入してください（リターンも）
- 「各科目と学科教育目標の対応表」を参照して、「教育目標」の欄に、それぞれの科目の受講によって達成される教育目標項目のところに 印を記入してください
- 「各科目と学科教育目標の対応表」に記載していない科目については、左側部分のみ記入します
- 次学期以降は、前学期までで達成度の低かった目標項目が補充されるような授業選択を心がけてください
- 今学期に特に心がけたいことを「今学期の期待・努力目標」の欄に記入してください。次学期以降は、この欄は、一番はじめに前学期までの単位取得状況の反省などに基づいて記入してください
- 単位の取得状況に問題があるなど、担任から相談に来るように指示を受けた学生は、以上を記入した上で担任のところに行ってください

(2) 学期開始から一週間後

- 受講を取りやめる科目については、記入した上から2本線を引いてください
- さらに取りやめる理由を、備考欄にメモしておいてください
- 単位認定が認められたものや、他大学の受講が認められた科目があれば、追加で記入してください
- 記入が終わったら、全員学年担任に提出します。担任は控えを取って、数日中に返却します

(3) 学期途中

- 原則として、途中で受講を取りやめることは望ましくありませんが、やむをえず取りやめる場合などは、(2)と同じように、理由などを記入しておいてください
- その他、必要に応じて、授業への熱意などに変化があったときには、記録しておくことが望まれます

(4) 単位取得についての発表後

- 単位が取得できなかった科目は、単位数、印の上から × 印 を書いてください
- ひとつの科目で複数の教育目標が設定されている科目については、授業担当から、教育目標ごとの評価値が各自に返されます。それに基づいて、達成できなかった項目について 印の上から × 印 を書いてください
- × 印がついた場合は、その理由や反省点、また授業担当からのアドバイスなどがあれば、それらを備考欄にメモしておいてください
- 単位が取得でき、かつ以上の記入が終わった科目は、「取得済」欄に ○印を書いてください
- その学期で取得できた 印の個数を数えて(次学期以降は、前学期分と合算して)、その個数を「達成度の集計」の欄に記入してください
- 同様に取得できた単位数も集算し、成績通知票の合算単位数と見比べ確認してください
- 学期全体を見渡して、当初の予定通りに単位が取得できたか、単位を落としたことによって教育目標の項目で達成度が低いままのものがないか確認してください
- 思い通りに単位を取得できなかったような場合に、その理由や反省点を、「今学期の反省」の欄(裏面)に記入してください。
- 以上は、新学期の履修科目を決める前(上巻、(1)または(2)で担任に提出する時期まで)に、記入を終わらせてください

3. もう一度、提出時期のまとめ

- すべての学生について

学期開始から約1週間後、掲示などで担任に提出するように指示が与えられます。

その時までに、前学期分のまとめと、新学期の予定をすべて記入して提出してください。

数日中に返却するので、大切に保管しておいてください。なお、必要に応じて、返却時に面談することもあります。

- 特に担任から指示があった場合

前学期の成績が良かった直後など、達成度が思わしくない学生に対して、適宜、面談等を行います。

その時までに、前学期分のまとめと、新学期の予定までをすべて記入して持参してください。

科目と学科教育目標の対応表

H17.4

時間割 コード	担当教官	授業科目名	学年	学期	教育目標との対応															
					I-i)	I-ii)	I-iii)	I-iv)	I-v)	I-vi)	II-i)	II-ii)	II-iii)	II-iv)						
	前期分																			
K4016	桑原・原田	※情報リテラシ	1年	前期	-	-	-	-	-	-	◎	-	-	-						
K7009	榊原暢久	※社会現象と微分方程式 I	1年	前期	-	-	-	-	-	-	◎	-	-	-						
K7017	呉	※力学I	1年	前期	-	-	-	-	-	-	◎	-	-	-						
T7601	仁平政一	線形代数 I	1年	前期	-	-	-	-	-	-	◎	-	-	-						
T7603	佐々木正祥	図学	1年	前期	-	-	-	◎	-	-	◎	-	-	-						
T7605	都市システム工学科教員	都市システム工学序論	1年	前期	◎	◎	-	-	-	◎	◎	◎	◎	◎						
T7606	天野一男	応用地質学	1年	前期	◎	-	◎	-	-	-	◎	◎	◎	◎						
T7608	福澤公夫	建設材料学	1年	前期	-	-	-	-	-	◎	-	◎	-	-						
K4017	横木・村上	※情報処理概論	2年	前期	-	-	-	-	-	-	◎	-	-	-						
K5006	根田隆平	※技術倫理	2年	前期	-	-	-	-	-	-	-	-	-	◎						
T7609	金利昭	土木計画論	2年	前期	◎	-	-	-	-	-	-	◎	-	-						
T7610	榊原暢久	応用数学 I	2年	前期	-	-	-	-	-	-	◎	-	-	-						
T7612	山田稔	数理統計 I	2年	前期	-	-	-	-	-	-	◎	-	-	-						
T7617	小柳武和・神子直之・桑原祐史	リモートセンシングおよび環境計測法	2年	前期	-	-	◎	-	-	-	-	◎	-	-						
T7619	呉智深	構造力学 I	2年	前期	◎	-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	◎						
T7621	三村信男	水理学 I	2年	前期	-	-	◎	-	◎	◎	◎	◎	-	-						
T7623	安原一哉	土の力学 I	2年	前期	-	-	-	-	-	-	◎	◎	-	-						
T7628	金利昭、山田稔	土木計画論演習	2年	前期	◎	◎	-	-	◎	◎	◎	◎	-	◎						
T7631	神子直之	上下水道工学	2年	前期	-	-	◎	-	-	-	◎	◎	-	-						
T7632	金利昭	社会システム分析	2年	前期	◎	◎	-	◎	◎	-	-	◎	-	-						
T7633	小柳、桑原	都市システム工学製図	2年	前期	-	-	-	◎	-	◎	-	◎	-	-						
T7669	呉 智深、安原一哉、三村信男	建設工学演習 I	2年	前期	-	-	-	-	-	-	-	◎	-	◎						
T7635	中本律男	数学解析 II	3年	前期	-	-	-	-	-	-	◎	-	-	-						
T7636	神子直之、日置佳之	生態学	3年	前期	-	-	◎	-	-	-	◎	◎	-	-						
T7638	山田稔	計画数理	3年	前期	-	-	-	-	-	◎	◎	◎	-	-						
T7639	横山功一	鋼構造及び橋梁工学	3年	前期	-	-	-	◎	-	-	-	◎	-	-						
T7640	井上涼介	地震及び振動工学	3年	前期	-	-	-	-	-	◎	◎	◎	-	-						
T7643	小峯秀雄	基礎地盤工学	3年	前期	-	-	-	-	◎	-	-	◎	-	◎						
T7653	都市システム工学科教員	都市システム工学トピックス I	3年	前期	◎	-	-	-	◎	◎	-	◎	◎	◎						
T7659	小柳・金・山田・桑原	都市システム設計演習 I	3年	前期	◎	-	-	◎	◎	-	-	-	-	-						
T7667	都市システム工学科教員	都市システム工学学外実習	3年	前期	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
T7675	小柳武和	空間設計	3年	前期	◎	-	-	◎	-	-	-	◎	-	◎						
T7677	福澤公夫	コンクリート工学	3年	前期	-	-	◎	-	-	-	-	◎	-	-						
T7665	小峯秀雄	土木行政(小峯分)	4年	前期	-	-	◎	-	-	-	-	-	-	-						
T7665	沼尾達弥	土木行政 沼尾分	4年	前期	-	-	-	-	-	-	◎	-	-	-						
T7665	横山功一、三上哲司	土木行政(横山、三上分)	4年	前期	-	-	◎	-	-	-	◎	-	◎	◎						
T7666	都市システム工学科教員	都市システム工学トピックス II	4年	前期	◎	-	-	-	◎	◎	-	◎	◎	◎						
T7668	沼尾達弥	建築構造設計	4年	前期	-	-	-	-	-	-	-	◎	-	-						

注) 未掲載の科目については、今後追加されることがある

学科の教育目標
I-i) 広い視野と柔軟な思考
I-ii) 地域・文化・市民社会への素養
I-iii) 環境観
I-iv) デザイン能力、システムの計画・設計能力
I-v) 課題探求能力
I-vi) 自律的・継続的学習能力
II-i) 技術者としての基礎力
II-ii) 専門基礎学力
II-iii) 技術者倫理
II-iv) 実際問題への応用力

科目と学科教育目標の対応表

H17.4

時間割 コード	担当教官	授業科目名	学年	学期	教育目標との対応																
					I-i)	I-ii)	I-iii)	I-iv)	I-v)	I-vi)	II-i)	II-ii)	II-iii)	II-iv)							
	後期分																				
K7059	三村信男	※社会現象と微分方程式Ⅱ	1年	後期	○	-	-	-	-	◎	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
K7068	中川尚子	※力学Ⅱ	1年	後期	-	-	-	-	-	-	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
K9454	安原	※都市システム工学ゼミナールA	1年	後期	○	-	○	○	◎	-	○	-	◎	-	-	-	-	-	-	-	
K9455	小峯秀雄	※都市システム工学ゼミナールB	1年	後期	-	-	○	-	◎	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
K9456	金	※都市システム工学ゼミナールC	1年	後期	-	-	-	-	◎	◎	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
K9457	山田稔	※都市システム工学ゼミナールD	1年	後期	-	-	-	-	◎	◎	◎	○	-	-	-	-	-	-	-	-	
K9458	桑原	※都市システム工学ゼミナールE	1年	後期	-	-	-	-	◎	◎	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
T7602	仁平政一	線形代数Ⅱ	1年	後期	-	-	-	-	-	-	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
T7604	八谷雄喜	力学	1年	後期	-	-	-	-	-	-	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
T7607	馬場・横木	測量学	1年	後期	-	-	-	-	-	-	○	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	
T7630	山形耕一	都市・地域計画	1年	後期	○	◎	-	-	-	-	-	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	
T7676	沼尾達弥	材料力学	1年	後期	-	-	-	-	-	-	-	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	
K5053	宮内寿子	※技術倫理	2年	後期	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	◎	-	-	-	
T9930	宮内寿子	技術者倫理	2年	後期	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	◎	-	-	-	
T7611	中本律男	数学解析Ⅰ	2年	後期	-	-	-	-	-	-	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
T7613	福澤公夫	数理統計Ⅱ	2年	後期	-	-	-	-	-	-	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
T7615	菅谷・小澤・高橋	物理学実験	2年	後期	-	-	-	-	-	-	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
T7616	山田・信岡	都市システム情報処理	2年	後期	-	-	-	-	○	-	◎	○	-	-	-	-	-	-	-	-	
T7618	桑原祐史	測量学実習	2年	後期	-	-	-	-	-	◎	-	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	
T7620	横山功一	構造力学Ⅱ	2年	後期	-	-	-	-	-	-	○	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	
T7622	横木裕宗	水理学Ⅱ	2年	後期	-	-	-	-	-	-	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
T7624	安原一哉	土の力学Ⅱ	2年	後期	-	-	○	-	-	-	◎	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	
T7626	沼尾達弥	コンクリート構造学	2年	後期	-	-	-	-	-	-	-	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	
T7627	三村信男	地球環境工学	2年	後期	◎	-	◎	-	○	○	-	◎	○	-	-	-	-	-	-	-	
T7629	小柳武和	景観工学	2年	後期	-	-	-	-	○	-	○	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	
T7637	金利昭 山田稔	交通システム	2年	後期	○	○	○	◎	○	-	-	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	
T7650	沼尾達弥	都市設備及び住居環境	2年	後期	-	-	-	-	-	-	◎	○	-	-	-	-	-	-	-	-	
T7670	横山功一、安原一哉、横木裕宗	建設工学演習Ⅱ	2年	後期	-	-	-	-	-	-	○	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	
T7634	小峯秀雄	地下構造学	3年	後期	-	-	-	◎	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	◎	-	
T7641	白川・横木	河川・水循環工学	3年	後期	-	-	○	-	○	-	-	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	
T7642	三村信男、横木裕宗	海岸工学	3年	後期	-	-	◎	-	-	-	○	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	
T7656	都市システム工学科教員	都市システム工学特別講義	3年	後期	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	
T7657	沼尾達弥	都市システム工学実験Ⅰ(材料実験)	3年	後期	-	-	-	-	○	○	○	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	
T7657	横木裕宗、信岡尚道	都市システム工学実験Ⅰ(波の性)	3年	後期	-	-	○	-	○	○	◎	○	-	-	-	-	-	-	-	-	
T7658	都市システム工学教官	都市システム工学実験Ⅱ	3年	後期	-	-	-	-	○	◎	-	◎	-	-	-	-	-	-	-	○	
T7660	都市システム工学科教員	都市システム設計演習Ⅱ	3年	後期	-	-	-	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	
T7661	呉智深	構造工学	3年	後期	○	-	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
T7663	アーモンドディナマイケル	専門英語	3年	後期	-	-	-	-	-	-	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
T7673	西島浩之 橋本修治 木田 静	輸送施設工学	3年	後期	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	◎	
T7674	豊島信拓、山元 弘、高津知司、吉	建設施工	3年	後期	-	-	○	-	-	-	-	◎	-	-	-	-	-	-	-	◎	

注) 未掲載の科目については、今後追加されることがある

学科の教育目標
I-i) 広い視野と柔軟な思考
I-ii) 地域・文化・市民社会への素養
I-iii) 環境観
I-iv) デザイン能力、システムの計画・設計能力
I-v) 課題探求能力
I-vi) 自律的・継続的学習能力
II-i) 技術者としての基礎力
II-ii) 専門基礎学力
II-iii) 技術者倫理
II-iv) 実際問題への応用力

学生自己点検票 (書式作成:H16.4)

学期 _____ 年 前・後期 番号 _____

氏名 _____

授業 コード	科目名	担当 教官	授業時間 曜・時間	オフィス アワー 曜・時間	単 位 数	教育目標I						教育目標II				取 得 済	備 考
						i)	ii)	iii)	iv)	v)	vi)	i)	ii)	iii)	iv)		
達成度の集計				このページの合計													
				前ページからの累計													

今学期の期待・努力目標
